小文間明星院の大師石仏！

写真 01）取手市小文間明星院境内の大師石仏。

写真 02）石下大師 88 体の内の一体。

小文間の明星院は戦後の昭和 45 年に新たに出来たお寺です。新四国相馬霊場第 19 番があり、札所の方が寺院よりも古いことになります。

(写真 01)、明星院の境内には、露天の大師石仏が 20 体程境内に散在しています。石仏の大きさは全て同じような大きさで像高 40～50cm、半分ほどは首が無くなっています。

全国の大師仏は、台座に地名が記されている場合が多いのですが、明星院のこれらの石仏には文字の痕跡はありません。よく見ると一体づつ佛顔の顔相が違い、削り後もノミを使っているので一体づつ手で彫ったもので、古さを感じます。

仏像のことを尋ねてみたのですが、分からないようで、「下総のへんろ道」に記載されている「石下新四国霊場」と「厳島神社新四国霊場」の資料を贈呈し説明しました。

説明中に次の項目が疑問として発生しました、

一、仏像が全て同じ造りであるので、彫刻師や年代が一元と考えられ、厳島神社にあったものではないか。

二、厳島神社の大師仏が開創者入江与五郎と共に取手に移した先のお寺が明星院であるが、福永寺もまた、院号が明星院である。だが大師像の痕跡が無く、また通常は寺名が使われる筈である。

三、「一部を新石下に祀りなおした」は何時頃の話なのか。

石下大師のある西福寺ご住職からの御返事は、次のようでした。

『石下大師の復興と共に、檀家各位が持寄った大師像であって、どのような過程で祀られているかは、個人に訪ねないと分らないとの事、だが復興時には新たに造られた石仏や昔からあったような古いものまで、いろいろあるので、明星院にお世話になった大師像もあるのではないでしょうか。

以下、きっかけとなった「下総のへんろ道」掲載文。　>>>

できたのがこの新四国で、通称「石下大師」と呼ばれ、名主小口孫兵衛の貧民救済事業に係わる由縁を開創の歴史としている。

築いた山の木々の間にまに肩を寄せ合うように安置されている堂宇および大師石像の数は百二十四、近くの平内に社地を持つ厳島神社に祀られていた石像もこの中に含まれているというが、それが何体で、どの座像であるか今日では解明できそうもない。

それらの堂宇等は守護する人々によって改條おるいは改築されながら今日においても巡拝が続けられている。

厳島神社新四国霊場

厳島神社（茨城県石下町平内）に安置されている大師座像である。

いつの時代であるか定かではないが、病弱の二人の娘を持つ入江与五郎が最後の手段として弘法大師に助力を願う決心をし、大師座像を刻ませ日夜を分かたず信心を尽くしたところ日毎に体力を取戻した。

この様子を見ていた村人らは誰いうとなく大師像を奉納し、遂に八十八体を数えるに至り、「与五郎大師」と名付けたという。

与五郎は、その後稲敷郡茎崎村へ移り住み、八十八体の大師像の営理は北相馬郡小文間(取手市小文間)の明星院に引き取られていたが、一部はその後、新石下の西福寺へ祀り直したという。

村人に伝わることで詳細は不詳である。 <<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<<< 以上

2013 年 8 月 14 日現在の状況では、厳島神社境内には、大師像もその痕跡も無い。

西福寺の境内の「石下大師」は有名であり、大師石仏は札所毎に御堂の中に祀られています。

座布団の上に弘法大師石佛が座り、大事に祀られている様子が伺われます。

西福寺の大師像の一部は、写真 02 の様に写真 01 の明星院の大師石像と似ていることから、下総のへんろ道に記されている、裏づけの一つと思っている。

壽廣山観音院西福寺

当山は壽廣山観音院西福寺と号し、寛永 9 年(1632)に了学上人の隠居所として建設された。

寺宝としては、弥陀三尊像・両大師像・聖観世音菩薩像・真言八祖掛軸（狩野深幽作）・平将門供養碑（北条時頼命）などがある。

浄土宗の寺院としては珍しく、境内に四国八十八ケ所の霊場が祀られています。これは、天明 2 年(1782)の大飢饉の際、開基大檀那の小口孫兵衛氏の子孫が、救済事業として私財を投げ打って、飢餓に苦しむ農民らに築かせたものであり、池を掘り山を築き、八十八ケ所のお堂が祀られているものです。

現在でも毎月 21 日に縁日が開かれ近隣の参詣者で賑わっており、当地に居ながらにして四国八十八ケ所霊場のお遍路参りが出来る訳であります。 JA 石下のホームページより

西福寺、石下大師の各霊場 〒300-2706 茨城県常総市新石下 1034 電話：0297-42-2300

新四国相馬霊場八十八ヶ所を巡る会　実行委員会資料　2013/09/28　記